

2017(平成29)年度決算について

学校法人 桃山学院
理事長 出田善蔵

2017(平成29)年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2018年5月22日(火)開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

[決算概要]

(1)資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2017年度の決算は、収入の部合計で1億7,030万円増加の225億6,344万円となりました。これは主に、補助金収入(主に経常費補助金収入)、学生生徒等納付金収入(主に大学授業料収入)、およびその他の収入(主に預り金収入)の増加によるものです。

一方、支出の部では、経常費の節減により教育研究経費支出、管理経費支出などが減少し、翌年度繰越支払資金を除く支出合計で6億3,483万円の減少となりました。

このように収入増、支出減の結果、翌年度繰越支払資金は8億513万円増加の76億8,274万円となりました。

(2)事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡の状態(経営状態)をあらわす書類です。計算技術的には、企業会計の損益計算書とよく似ています。ここでは、予算額との比較で説明します。

まず事業活動収入計(旧帰属収入合計)においては、1億4,053万円増加の145億5,027万円となりました。これは主に経常費等補助金、学生生徒等納付金の増加によるものです。

事業活動支出計につきましては、教育研究経費をはじめとする他の科目において減少し、合計で116億4,387万円となり、3億1,744万円減少しました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額(旧帰属収支差額)につきましては、4億5,798万円増加の29億640万円の収入超過となり、事業活動収支差額比率(旧帰属収支差額比率)は2.98ポイント増の19.97%となりました。

基本金組入額につきましては、5,047万円減少の75億7,815万円となりました。その中身につきましては、図書や備品関係といった恒常的な取得資産の他に、プール学院大学の設置者変更や SAINT(教育・研究ネットワークシステム)の更新、和泉キャンパス中長期改修計画に基づく学舎の改修、高校の屋内プール更衣室増改築工事に関するものがあります。

75億7,815万円の基本金組入れにより、当年度収支差額は46億7,175万円の支出超過と

なり、加えて基本金について計画変更に伴い第2号基本金 30 億円を取り崩したことにより、翌年度繰越収支差額は 10 億 7,729 万円となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は期末における学院の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず資産の部ですが、有形固定資産では、プール学院大学の設置者変更を主要因とし、和泉キャンパス中長期改修や SAINT 更新といった大規模な施設設備投資等により、資産の増加は 46 億 6,919 万円となりました。特定資産では第 2 号基本金引当特定資産の取崩等により 5 億 5 千万円の減少となりました。その他の固定資産では長期貸付金の減少などにより 4,659 万円減少し、結果、固定資産は 40 億 7,260 万円の増加となりました。

流動資産では現金預金の減などにより、合計で 1 億 4,360 万円の減少となりました。これらの結果、総資産額は、39 億 2,900 万円増加の 869 億 8,855 万円となりました。

次に負債の部では、固定負債における退職給与引当金の減少があったものの、流動負債における未払金の増加などにより、負債合計で 10 億 2,260 万円の増加となりました。

したがって、純資産額は 2016 年度末に比して、29 億 640 万円増加の 809 億 9,791 万円となり、総資産額に占める割合は 93.1%となりました。

なお、各々の科目の数値等につきましては別掲「各種計算書類」を、上記財務3表における実績ベースでの経年の概況・比較につきましては決算経年推移資料をご覧ください。

以 上

2017 年度 資金収支計算書
2017 年度 活動区分資金収支計算書
2017 年度 事業活動収支計算書
2017 年度 資金収支・事業活動収支内訳表
2017 年度 貸借対照表
2017 年度 財産目録総括表
2017 年度 収益事業部決算報告
決算経年推移資料